



サイコウ sci-甲! サイエンス 甲南高校

担当： 2年1組 (神谷・重村) 2年2組 (上田・一松)
2年8組 (松元・マローニ) 1年1組 (松井)

コーチングセミナー (2年)



11月4日(木)に2年生を対象にコーチングセミナーが行われました。本セミナーは、グローバルリーダー育成のために必要な協働性やチャレンジ精神、多角的な思考を身に付けることを目的とし、講師として、株式会社成基数研コーチング室室長の大村伸介さんに来ていただきました。

大村さんは、ノミを使った実験やある幼稚園で跳び箱を飛ぶ男の子の動画を通して、「自分で限界を決めるとそこまでしかできない。しかし、自己肯定感を高め、自分を信じることで、自分のレベルを高め、さらに力を発揮できるようになる」といったお話をされました。

また、スクリーンに投影された絵を、その絵を見ない人に言葉で伝え、描いてもらうということをしたが、正確に絵を描くことのできた人は少なく、情報を正確に伝える方法についてもアドバイスをもらいました。

セミナー終了後には、「『ネガポジ』(ネガティブな考えをポジティブに変える)の考え方が参考になった」、 「自分の短所や欠点をポジティブな見方に変えることで自己肯定感を高めていきたいという意思が高まった」などといった声が聞こえてきました。

大村さんから教わったことを今後、何かを決定するときや判断するとき、人と接するとき生かしていきたいです。

(2-1 神谷・重村)



▲スクリーンに映る絵を後ろの人に説明している様子

第2回「リケジョに学ぶ最新の科学」

11月17日(水)、トヨタ車体研究所の前田歩美さんを講師にお招きし、今年度2回目の「リケジョに学ぶ最新の科学」が開かれました。

講師の前田さんは、自動車に搭載するスピーカーをはじめとした音響機器の研究に取り組まれています。今回は、自動車の構造上、スピーカーの取り付け位置が制限される中、車内で、どの席に座ってもオーケストラが目の前で演奏しているかのような気分になれる音づくりをモットーに、試行錯誤しながら研究されていることを話してくださいました。

また、前田さんが携わった音響機器を搭載した自動車に乗り、実際の音楽を聴かせてもらい、音響のすごさを体感することができました。

今回の講座で、車内のスピーカー、音響環境においても、私たちが快適に楽しめるように、わずか数ミリメートルの単位で工夫をされていることを教えていただきました。

日ごろ私たちが何気なく利用している様々な製品も研究者の並々ならぬ試行錯誤の末、完成された研究の賜物であることを深く感じました。

私たちがこれから、より一層、日常生活のちょっとしたことにも目を向けて、多くのことに興味を持ち、創意工夫を心掛けていく姿勢をもつことが大切だと思います。今回学んだことを今後の課題研究活動や、卒業後の進路選択、そしてその先にも生かしていきたいです。

(1-1 松井)



▲音響機器について説明する前田さん



▲音響のすごさを実感



SSH 交流フェスタ

11月19日(金)、第一工科大学にて、県内のSSH校5校100人近くが集まり、課題研究を発表する「SSH交流フェスタ」が開催されました。

甲南からはスライド部門で3グループ、ポスター部門で3グループの計6グループが参加し、それぞれが参加者や鹿児島大学、第一工科大学の審査員の前で発表しました。



宮脇先生は「甲南で今回の交流フェスタに参加したグループは今まで地道に研究を重ねて、妥協せずに向き合ってきたグループばかりで、研究に臨む姿勢が素晴らしかった。多くの生徒にもこの姿勢を心掛けてほしい」「ステージ発表部門で優秀賞を受賞した『柚子の天然防腐剤』についての発表をはじめ、各参加グループの更なる研究の深化に期待したい」など、甲南生への期待を寄せていました。また、先生が一番心に残った他校の発表は最優秀賞をとった錦江湾高校の発表だといいます。虫の生態を1年にわたって研究してきたこのグループの発表を見て、先生は、探求心を持つことが課題研究の内容を深めることにおいて大切だと感じ、「甲南生にもぜひ『どうしてこのことが成り立つのか』といった疑問をどんどん追及してほしい」と語っていました。(2-8松元・マローニ)



学びに UK 選考会 (2年生)

6年前から実施されている生徒海外派遣事業「学びにUK」7期生募集に対して30名を超える申し込みがあり、10月に書類による選考が行われました。応募用紙には課題研究に関することや志望動機、それに加えて英語による自己PRなどを記入するようになっていました。その後、11月には面接による選考が行われました。面接では、日本語や英語を用いて、志望理由はもちろん、SS探究で取り組んでいる研究についての説明や関心のある社会問題についての質問が行われたりしました。

書類審査と面接による総合評価で10名の生徒が派遣生として選考されましたが、コロナウイルス感染症が終息しない状況下であるため、派遣先として予定されていたイギリス・ロンドンから東京へと変更することとなりました。東京では「TOKYO GLOBAL GATEWAY」にて海外にいるような感覚で英語の体験ができる予定とのことです。参加者はいつもとは違った角度で英語に触れる機会になると思われます。また、この選考で選ばれなかった生徒も別のイベントに参加する機会が設けられたため、多くの生徒にとって貴重な経験を積む機会となるはずで
す。(2-8松元・マローニ)

鹿児島県高等学校生徒理科研究発表大会

11月4日(木)に、第28回鹿児島県高等学校生徒理科研究発表大会が宝山ホールで開催されました。県内から11校が参加し、「物理」「化学」「生物」「地学」の4部門における研究が発表され、最優秀賞1校と優秀校2校が選出されました。甲南高校からは、生物分野の「ニホンミツバチはなぜ五角形の巣を作ったのか〜ハニカムの謎に迫る〜」と、物理分野の「離岸流の研究」の2グループが出場しました。

出場した自然科学部2年の丹羽さんは「審査員が有名大学の方だったことや、他のグループの研究のレベルが高かったこともあり、とても緊張しました。質疑応答の際に上手く答えられなかったため、次からしっかり答えられるように自分の研究内容をよく理解し、調べておくことが大切だと思いました。」と話していました。

皆さんも様々なことに関心を持ち、積極的にSS探究や校外での発表にもチャレンジしていきましょう。

(2-2上田・一松)

